

区画線消去時における公衆災害防止

広島県土木施工管理技士会
株式会社 上垣組
土木部
小林 智 幸
Tomoyuki Kobayashi

1. はじめに

本工事は重要港湾広島港臨海土地造成事業の一環として、広島市佐伯区五日市港地先における工事延長 L=333.4m 舗装面積 A=約4,700㎡ 排水構造物 L=約750m 区画線工 L=約1,600m の新設道路築造したものです。

本工事施工箇所は既設道路にアクセスする交差点を築造するに当たり路上駐車が多い現場状態でした。本報告は既設道路の区画線消去時の工夫事例について報告します。

工事概要

- (1) 工 事 名：特定重要港湾広島港 五日市地区
臨海土地造成事業道路舗装工事
(21-2 工区)
- (2) 発 注 者：広島県広島港湾振興事務所
- (3) 工事場所：広島市佐伯区五日市港二丁目
- (4) 工 期：平成21年7月22日～
平成22年1月12日

工事概要

アスファルト舗装工 (車道)	A=3,890㎡
(歩道)	A= 877㎡
区画線工	L=1,663m
排水構造物工	1 式
境界ブロック工	L= 732m
照明設置工	6 基

2. 現場における問題点

区画線消去の従来工法（切削式）では路面上に有る区画線を切削する事により消去を行う。

そこで問題となるのが当現場では既設道路には路上駐車が多い事と釣り客（歩行者）が多い。港の近くという事も有り風が強くまた、貨物トラックが置き去りにされている状態の中、従来工法の切削式で発生する粉塵による公衆災害が懸念された。



写真-1 従来工法（切削式）

3. 工夫・改善点と適用結果

(1) 施工工法の変更

下記のように消去時の工法を変更した。

消去時にウォータージェットとバキュームを併

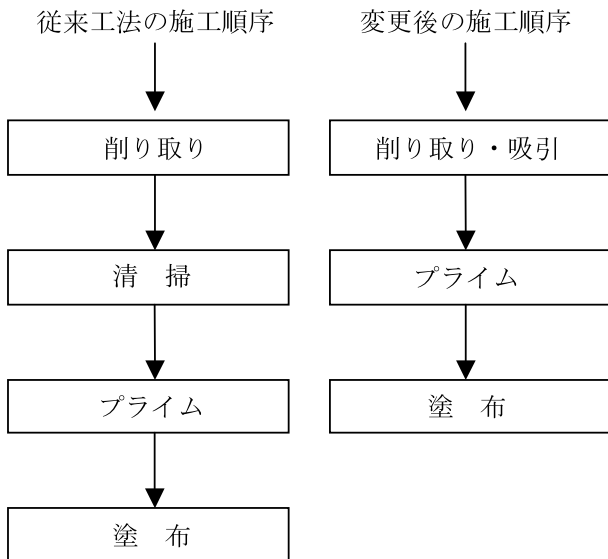


図-1 フロー図

用して区画線を消去するウォータージェットピーラー・システムを採用する事により従来工法では発生していた粉塵の飛散防止が可能となった。

また、路上駐車や歩行者への公衆災害を防止でき安全に施工する事ができた。

仕上面に置いても吸引を併用する事により切削面を確認しながらの施工が可能であるため余分な路面を誤切削せず、削り残しもない区画線消去が可能となった。



写真-2 区画線消去状況



写真-3 区画線消去完了

4. おわりに

(適用条件)

適用条件として施工環境が大きく影響する。例えば大型のユニットとバキュームを併用するので幅員の狭い環境では工事規制帯を長く取る必要がある。

(留意点)

区画線消去時の公衆災害防止を最優先課題としてウォータージェット・ピーラー・システム工法を実施しました。今回報告させて頂きました工法は当該現場に即した内容ですが、少しでも関係者の参考になれば幸いです。